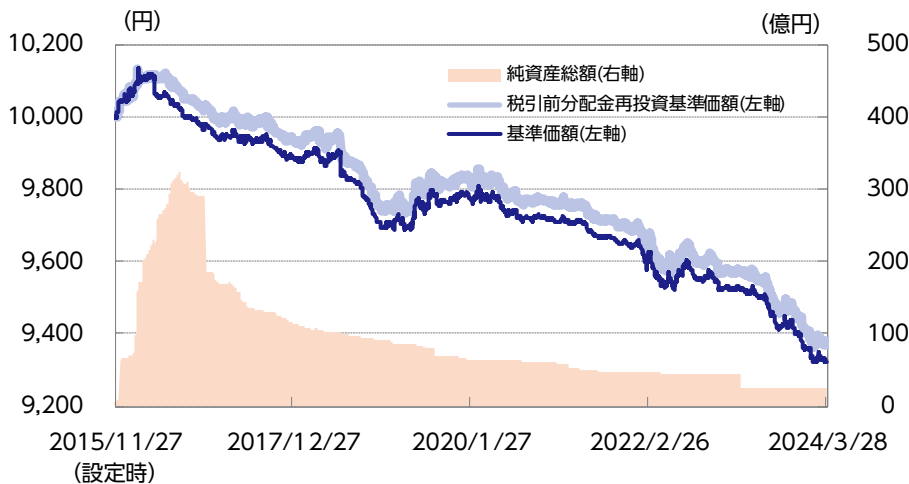




運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	9,320円
前月末比	-16円
純資産総額	24億円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第10期	2020年11月	0円
第11期	2021年05月	0円
第12期	2021年11月	0円
第13期	2022年05月	0円
第14期	2022年11月	0円
第15期	2023年05月	0円
第16期	2023年11月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		50円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.2%	-0.4%	-1.2%	-2.1%	-4.0%	-6.3%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

基準価額の変動要因

	1ヵ月	設定来
インカム	0円	126円
キャピタル	-12円	-254円
信託報酬等	-5円	-502円
分配金	-円	-50円
合計	-16円	-680円

※要因分析は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

※各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

マザーファンドの状況

組入比率・ポートフォリオ情報		比率	ポートフォリオ平均	
債券		69.9%	-	※1「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。
平均最終利回り	※1	-	0.39%	※2「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。
平均クーポン	※2	-	0.25%	※3「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価(※1~3は組入債券を加重平均したものです。短期金融資産等は含まれておりません。)
平均直利	※3	-	0.26%	※4 当ファンドは短期金融資産等を含めポートフォリオの調整を行うため、投資環境によっては短期金融資産等の保有比率が高まる場合があります。短期金融資産等には先物の含み損益も含まれます。
短期金融資産等	※4	30.1%	-	
平均修正デュレーション (月中平均)	※5	- 0.67年 (- 0.94年)		※5「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ(リスクの大きさ)を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。 [加重デュレーション]=[修正デュレーション×組入比率]で算出したものです。
債券部分の加重デュレーション		4.00年		※対純資産総額比
債券先物部分の加重デュレーション		- 4.67年		

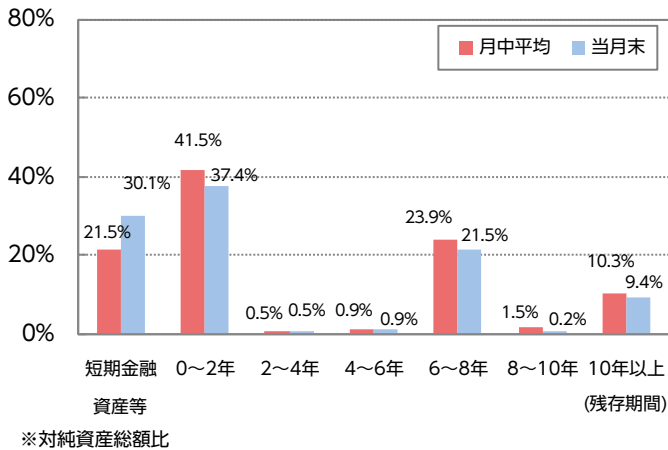
国内債券現物 組入全銘柄 (銘柄数: 31)

	銘柄	債券種別	償還日	クーポン	格付	比率
1	第1215回 国庫短期証券	国債	2024/06/03	0.000%	A A A	15.0%
2	第1218回 国庫短期証券	国債	2024/06/17	0.000%	A A A	11.3%
3	第362回 利付国債(10年)	国債	2031/03/20	0.100%	A A A	9.2%
4	第81回 利付国債(30年)	国債	2053/12/20	1.600%	A A A	7.8%
5	第360回 利付国債(10年)	国債	2030/09/20	0.100%	A A A	6.5%
6	第363回 利付国債(10年)	国債	2031/06/20	0.100%	A A A	5.8%
7	第448回 利付国債(2年)	国債	2025/05/01	0.005%	A A A	4.6%
8	第453回 利付国債(2年)	国債	2025/10/01	0.005%	A A A	3.2%
9	第454回 利付国債(2年)	国債	2025/11/01	0.100%	A A A	2.2%
10	第16回 利付国債(40年)	国債	2063/03/20	1.300%	A A A	1.2%
11	第444回 利付国債(2年)	国債	2025/01/01	0.005%	A A A	0.6%
12	第159回 利付国債(5年)	国債	2028/06/20	0.100%	A A A	0.4%
13	第153回 利付国債(5年)	国債	2027/06/20	0.005%	A A A	0.3%
14	第446回 利付国債(2年)	国債	2025/03/01	0.005%	A A A	0.3%
15	第370回 利付国債(10年)	国債	2033/03/20	0.500%	A A A	0.2%
16	第161回 利付国債(5年)	国債	2028/06/20	0.300%	A A A	0.2%
17	第160回 利付国債(5年)	国債	2028/06/20	0.200%	A A A	0.2%
18	第113回 利付国債(20年)	国債	2029/09/20	2.100%	A A A	0.1%
19	第186回 利付国債(20年)	国債	2043/09/20	1.500%	A A A	0.1%
20	第155回 利付国債(5年)	国債	2027/12/20	0.300%	A A A	0.1%
21	第452回 利付国債(2年)	国債	2025/09/01	0.005%	A A A	0.1%
22	第80回 利付国債(30年)	国債	2053/09/20	1.800%	A A A	0.1%
23	第181回 利付国債(20年)	国債	2042/06/20	0.900%	A A A	0.1%
24	第142回 利付国債(5年)	国債	2024/12/20	0.100%	A A A	0.1%
25	第154回 利付国債(5年)	国債	2027/09/20	0.100%	A A A	0.1%
26	第15回 利付国債(40年)	国債	2062/03/20	1.000%	A A A	0.1%
27	第49回 利付国債(30年)	国債	2045/12/20	1.400%	A A A	0.1%
28	第447回 利付国債(2年)	国債	2025/04/01	0.005%	A A A	0.0%
29	第365回 利付国債(10年)	国債	2031/12/20	0.100%	A A A	0.0%
30	第373回 利付国債(10年)	国債	2033/12/20	0.600%	A A A	0.0%
31	第353回 利付国債(10年)	国債	2028/12/20	0.100%	A A A	0.0%
32	-	-	-	-	-	-
33	-	-	-	-	-	-
34	-	-	-	-	-	-

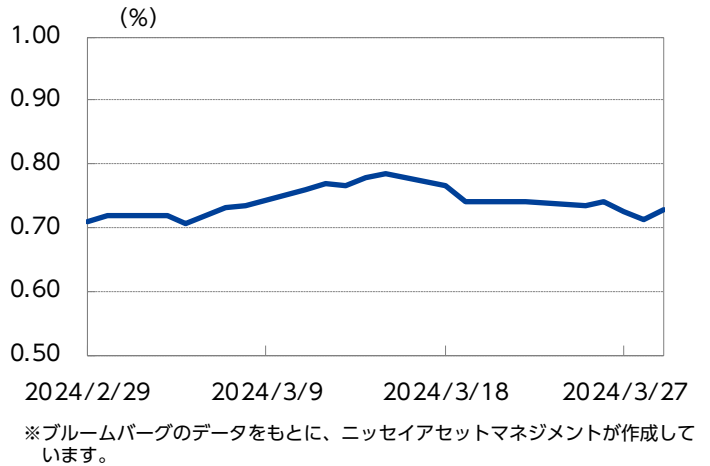
※対純資産総額比 ※格付は、R & I、J C R、ムーディーズ、S & Pのうち、上位の格付を採用しております。

本資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。

残存期間別組入比率



(ご参考) 日本金利 (10年国債) の推移



当月の市況動向

前月末を0.71%近辺でスタートした国内長期金利は、中旬に開催された日銀の金融政策決定会合までは、連日の金融政策修正に関する観測報道を受けて金利上昇しました。金融政策決定会合では、事前報道通りマイナス金利解除やイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の撤廃等、金融政策の修正が決定されたものの、今後の国債買入れ額は変わらないこと等がハト派（金融引き締めに慎重な姿勢）と受け止められ、国内長期金利は低下しました。月末にかけては、日銀の追加利上げ観測が金利上昇圧力となる一方、株高を受け年度末の機関投資家のリバランス（資産の再配分）による債券買いが金利低下圧力となり、もみ合いで推移しました。その結果、国内長期金利は前月末比で約0.02%上昇し、0.73%近辺で月末を迎えました。

ファンドの状況

当月末の基準価額は9,320円となり、前月末比-16円となりました。当月は、日銀が当月もしくは4月の金融政策決定会合でマイナス金利政策解除等の政策変更を行う可能性が高まったと判断し、デュレーションは短期化でスタートしました。中旬にかけては、春闘での賃上げ率が高水準となる見込みの中、日銀が当月の金融政策決定会合で政策変更を行う可能性が高いことを示唆する報道が相次いだため、デュレーションの短期化幅をやや拡大して調整しました。その後、金融政策決定会合ではマイナス金利政策解除等の政策変更が実施され、おおむね事前報道通りの内容となりました。長期金利はいったん材料出尽くしから低下圧力が高まりましたが、年内の追加利上げ観測がくすぶる中で上昇圧力が残ると判断し、デュレーションは短期化幅を維持して月末を迎えました。

結局、月末にかけての金利低下局面でデュレーションを短期化していたことがマイナスに働きました。

今後の見通しと運用方針

4月は、米景気が底堅く推移し米金利の上昇圧力が高まっていること、国内でも日銀の年内の追加利上げ観測がくすぶること等から、長期金利の上昇圧力が高まると想定します。デュレーションについては、短期化でスタートした後、国債入札や海外金利動向等を見極めつつ長期化および短期化で機動的に調整を行います。満期構成については、割安・割高の変化に応じて各年限の機動的な組み入れを行います。また、金利上昇圧力が高まる局面では債券先物を売却すること等により金利上昇のヘッジを行い、安定的なリターン獲得を目指します。

ファンドの特色

- ①主に日本国債に投資を行います。
- ②リスクを抑制しつつ、「日本の短期金利+ α （アルファ）」の収益の獲得をめざします。
- ③年2回（5・11月の各20日。休業日の場合は翌営業日）決算を行います。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。**

主な変動要因

債券投資 リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。
	信用リスク	債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。
国債先物取引に 関するリスク		国債先物の価格は、金利の動き、先物市場の需給等を反映して変動します。先物を売建てている場合の先物価格の上昇、または先物を買建てている場合の先物価格の下落により損失が発生し、ファンドの資産価値が減少する要因となります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
決算・分配	決算日	5・11月の各20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年2回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2025年11月20日まで（設定日：2015年11月27日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となりますが、当ファンドは、NISAの対象ではありません。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入申込受付日の基準価額に 1.65% (税抜1.5%) を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に信託報酬率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。信託報酬率は毎月毎に決定するものとし、各月の第1営業日から当該月の翌月の第1営業日の前日までの期間において、当該月の前月の最終営業日における日本銀行が発表する無担保コール翌日物レートに応じて、以下の通りとします。	
		無担保コール 翌日物レート	信託報酬率 (年率)
		1%未満	0.605% (税抜0.55%)
		1%以上 2%未満	0.715% (税抜0.65%)
		2%以上 3%未満	0.825% (税抜0.75%)
		3%以上	0.935% (税抜0.85%)
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011% (税抜0.01%) をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。	
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。	

- ❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ファンドに関するお問合せ先
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	三菱UFJ信託銀行株式会社	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
池田泉州T T証券株式会社	○	近畿財務局長(金商)第370号	○					株式会社イオン銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○	関東財務局長(登金)第633号	○				
岩井コスモ証券株式会社	○	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○			株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）	○	関東財務局長(登金)第10号	○		○		
auカブコム証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○		株式会社SBI新生銀行（委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○	関東財務局長(登金)第10号	○		○		
SMB C日興証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○		株式会社南都銀行	○	近畿財務局長(登金)第15号	○				
株式会社SBI証券	○	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○		株式会社北洋銀行	○	北海道財務局長(登金)第3号	○		○		
岡三証券株式会社(※3)	○	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○		株式会社北洋銀行（委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社）(※1)	○	北海道財務局長(登金)第3号	○		○		
ぐんぎん証券株式会社(※1)	○	関東財務局長(金商)第2938号	○					株式会社三菱UFJ銀行（委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社）(※2)	○	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○	
光世証券株式会社	○	近畿財務局長(金商)第14号	○					株式会社宮崎銀行(※1)	○	九州財務局長(登金)第5号	○				
KOYO証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第1588号	○												
ちばぎん証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第114号	○												
内藤証券株式会社	○	近畿財務局長(金商)第24号	○			○									
ひろぎん証券株式会社(※1)	○	中国財務局長(金商)第20号	○												
北洋証券株式会社(※1)	○	北海道財務局長(金商)第1号	○												
松井証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第164号	○		○										
マネックス証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○									
みずほ証券株式会社(※1)	○	関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○									
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○									
楽天証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○									

(※1)現在、新規申込の取り扱いを行っていません。

(※2)インターネットトレードのみ

(※3)一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。